隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 321 号
－環境・農業・食べ物など情報の交流誌－
2011.10.21（金）発行 山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.yamazaki-i.org
**********発行部数 1190 部**********

□ 目 次 □----------

＜巻頭言＞ まちづくりの推進と地域における演劇の活動 石川秀勇
＜読者の声＞ 平野さんから：「想定外」に込められた意味
＜お知らせ＞ 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました
＜編集後記＞ 語られない草たちの悲しみ

＜巻頭言＞ まちづくりの推進と地域における演劇の活動

＜まちづくり＞の推進には、地域に人を引きつける魅力を有することが大切だ、とされる。その一つは食べもので、近年「食」についての催し等が各地から伝えられる。

ちなみに、筆者が暮らす千葉県の北西部に位置する野田・柏・松戸など東葛 6 市の地域では、エダマメ・カブ・ネギといった全国トップクラスの生産量を誇る野菜の品目が多い。これら産品を食材にしたメニューを楽しんでもらうべく、昨年秋、「東葛 6 市野菜グルメ・フェスタ」を実施した。東葛 6 市レストランサミット実行委員会の主催で、オーナーシェフの 27 店が参加した。食欲の秋、味づくりに今年も注力のようである。

まちづくりの推進での大切なもう一つは、「知的な文化」面の魅力についてであろう。山崎農研では、優れた活動をされている個人や団体に「山崎記念農業賞」を贈呈している。その第 10 回（1984 年）の受賞は劇団「岩手ぶどう座」。“山村での 33 年にわたる独自の演劇活動と地域文化への貢献”が贈呈理由であった。

当時の資料をみると、岩手ぶどう座は北上市から西に入った奥羽山系の山間のムラ・湯田町にあって、1950 年に創立、小中学校の講堂や町の体育館で上演してきた。演目は地元の民話を題材にしたもの等、とある。

この劇団創立の 1950 年頃といえば、終戦から 5 年目で、青年たちが“楽しみの自給自足運動の一つ”として始められたのが演劇活動であった。その頃から半世紀余を経ているが、湯田町と隣接の沢内村とが 2005 年に合併し誕生した西和賀町のホームページによれば、岩手ぶどう座は、アマチユア劇団として活動をなお続けているとのこと。当町が総合計画で謳っている「演劇による町づくり」という地域の土壌を育んできた原点でもある。

演劇では、舞台で演じる役者と観客との間に心理的な交流が生まれ、人間の生きる意味を確かめさせるところに、映像でのテレビや映画と違うところがある。筆者の地元・千葉県野田市でも、劇作家で俳優もされるU氏主宰の劇団が、当地を出身とする歴史に名を残す偉人たちを主人公に、その苦闘の活躍を劇化したものなどがたびたび上演されている。

今年は、東日本大震災など、各地で大きな災害に見舞われた。被災地にあっては、一日も早く《復興》の段階に移行し、演劇のような知的な文化活動にも、地域にあって触れ得るときの招来されることが願われる。

石川秀勇
山崎農業研究所幹事・千葉県野田市在住
yamazaki@yamazaki-i.org

＜読者の声＞　平野さんから：「想定外」に込められた意味

第 320 号の「＜巻頭言＞　原発事故と技術者の良心」を拝読してお便りしたくなりました。

といいますのも、「想定外」という単語が 3.11 後に頻繁に使われるようになった意味をお伝えしたいと思ったからです。

急に頻繁に使われだした「想定外」。そこに何か不自然さは感じなかったでしょうか。

実は原子力事業に関する法律（正確な法律名は忘れました）に、「想定外」の事故が起きた時には、電力会社は賠償責任を問われないと書かれているのです。

条文中でまさしく「想定外」という表記が使われています。

だから東電を初めとする原子力村では、今回の福島での事故を「想定外」だったことに、是が非でもしなければならなかった。そのために「あの事故は想定外だったのだ」ということを世論の中で既成事実化するためのキャンペーンを行ったのです。

観ていて御覧なさい。東電に対する賠償問題が日の目を見ることになれば、政府や役人は「想定外」という言葉を、法律の条文を意識して使い出す。マスコミもそれに追従するでしょう。言わば出来レースです。

では実際に本当に「想定外」だったのでしょうか？。

違いますよね。

多くの方が指摘しておりますように、福島での原発震災はむしろ「想定内」。「そら見ろ、言った通りになってしまったじゃないか」という識者が大勢おります。かく言う私も長らく原発反対運動に携わっており、とくに原発震災の観点から、原子炉の稼動停止を求める運動をメインに行ってきました。

そして勿論、原子力村サイドでも本当は「想定している」のです。

しかし色々な可能性を想定すればするほど、それに対応するためにコストがかかる。

だからハードルを下げるためにわざと「想定しない」のです。公式文書において想定しておかなければ、それは自動的に「想定外」なのです。

学者や技術者がいくら警鐘を鳴らしても黙殺してきたのは、そういう訳なのです。取り上げたら想定できたことになってしまう。だから積極的に無視する。昔からそうやって原発を造ってきたのです。

「想定外」という言い方は、3.11 以降に初めて出てきた言葉ではなく、原子力村の伝家の宝刀として昔から使われてきた常套手段なのです。

つまり、危惧なさる通り、責任回避にも使われるし、必要な検討を行わない理

由にもされる。今までも実際に、そうされてきたのです。

これはもう、技術者や学者の問題ではありません。提灯学者を出世させて立派な肩書きをつけ、それによって自分達の主張を権威づける、逆に都合の悪いことを言う奴は干す、といったことをする連中が、この国では大きな力を持っているのです。

干されても自分の良心に従った多くの人が、それでもがんばってきたからこそ、「想定外」は嘘だということも判ったのです。

政府や東電に対する責任追及の場においては、「想定外」など決して許してはいけません。

平野　泰巳

＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.126』が発行されました。
ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。
yamazaki@yamazaki-i.org
までご連絡ください。

目次（抜粋）
《土と太陽と》（巻頭言）
アグロノミストとして、太陽エネルギーの利用を考える◎塩谷哲夫
［第 138 回定例（現地）研究会］
小川光氏 山崎記念農業賞を祝う会
研究会――ものづくり・ひとづくり・むらづくり をめぐって
参加者の声　成尾和浩／永井智一／若松美香／益永八尋
［第 139 回定例研究会］循環型社会と農業――とくに畜産との関係から
I　安全・安心こそいのち――牛飼い雑記◎峯村富治
II　有機性資源の循環利用による土の健康
――総合的養分管理の重要性◎松村昭治
［第 140 回定例研究会］蘇れ、山と森と林
I　荒れ山を逆手にとれ！ 木のある暮らしの実践と楽しみ方◎大内正伸

II　荒れる人工林：森林管理から木材利用まで林業再構築をめざして◎鋸谷 茂
〈連載〉畦道・赤トンボのナショナリズム［17］
科学とナショナリズム／宇根 豊

＜編集後記＞　語られない草たちの悲しみ

東京電力福島第一原子力発電所の事故後、積極的に情報発信されている森敏氏（東京大学名誉教授）のブログに、放射能に汚染されたヨモギとツユクサの写真が掲載されている。

WINEP ブログ 放射能汚染ヨモギとツユクサ
http://moribin.blog114.fc2.com/blog-entry-1288.html

この記事を読んだ感想を宇根豊さん（元農と自然の研究所代表）にメールで送った

「野の草のなかで親しみ深いヨモギやツユクサがこれだけ汚染されていることに怒りを覚えます。毎年春には、参加している環境 NGO で野草を摘んで食するというイベントをやっているのですが、今年は中止となりました。来年できるかどうかという心配もありますが、わたし自身、野の草を見るとき、これまでのように無条件に肯定的に見ることができない感じがあって、そうする自分への嫌悪感がはげしくあります。」

宇根さんのから返信を見てどきっとした。そこには「草たちもつらい目にあっているのですね」とあった。わたしは自分自身を恥じた。わたしは人間の側からしか考えていないではないか、と。

放射能汚染の問題は主として人間の健康の問題として語られる。しかし、福島の、日本の土地で暮らす生きものは人間だけではない。農作物や家畜はいうまでもなく、田んぼの生きものだっているし、野の草もや樹木もある。イノシシやクマのような野生動物だっている。そう、土だって生きものだ。

人間の命が大事ではないなどというつもりはさらさらない。しかし、人間とともに生きてきた生きものたち、野の草たちの苦しみ・悲しみにもっと目が向けられてもよいのではないか。そもそも人間だけの効用・利益の追求に傾斜して

きた社会のありようが今回の事故を招いたのではないか。「自然と人間の共生」といっても、それは人間の側の都合でしかないのではないか…

宇根さんからのメールを読み返しながらそんなことを思い続けた。

2011 年 10 月 21 日
山崎農業研究所会員・田口　均
yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考――グローバリゼーションの次は何か』
（発売：2008/11　定価：1,575 円 ）
http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/
たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ
http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html
◎戎谷徹也さん（大地を守る会）
ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記　“あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を
http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/
◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました
http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182
◎関良基さん（拓殖大学政経学部）
ブログ：代替案　書評：『自給再考　－グローバリゼーションの次は何か』
http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0
◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive
◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html
◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

http://www.rircl.jp/shiryo.htm
◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219
◎白崎一裕さん（（株）共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
3、1 回 1 テーマ、10 行位に。
4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 322 号の締め切りは 10 月 31 日、発行は 11 月 04 日の予定です。

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 321 号
最新号・バックナンバーの閲覧
http://archive.mag2.com/0000014872/index.html
http://nazuna.com/tom/denshico.html
購読申し込み／解除案内
http://www.yamazaki-i.org
2011.10.21（金）発行 山崎農業研究所＆編集同人
mailto:yamazaki@yamazaki-i.org
**********ここまで『電子耕』**********